



バルバス・バウ (球状艦首)



今回は、10 分の 1「大和」の先端部分に注目してみましょう。



なに でっば 何か出っ張っているね!

世界最大のバルバス・バウ (球状艦首)

大きな丸い球がついているような部分を、バルバス・バウ (球状艦首) といいます。船が進むと水面に波が起こり、船が進むのを邪魔する力が発生します。これを「造波抵抗」といいます。速度が速いほどこの造波抵抗は大きくなります。そこで、バルバス・バウの出番です。バルバス・バウは、大きな丸い部分で波を起こし、進むときに起こる波を利用することにより、造波抵抗を減らすのです。これで燃料も節約できますね。

一口メモ

当時、他の船にもバルバス・バウは採用されていましたが、「大和」の場合、飛び抜けて大きかったのです。

「大和」は他の戦艦と比べて、長さが短く、幅が大きい形をしていたんだ。この形だと、速く進むのは難しいけど、防御力や安定性能、船体抵抗の釣り合いから、仕方がなかったんだ...



航空母艦 (空母) は、飛行機を運ぶ船だよ!



▲バルバス・バウが採用された航空母艦「翔鶴」

そこで、少しでも速く進めるように対策したのが、このバルバス・バウ (球状艦首) だったんだね!!



ちなみに...戦艦「大和」の最大速力は 27 ノット!!



▲宿毛湾沖で公試運転中の戦艦「大和」 (昭和 16 年 10 月)